愛知教育大学教職キャリアセンター紀要　vol.4　pp. 145 ～ 152, March, 2019

「自分が好き、仲間・学校が好き、地域が好きな児童」を育てるカリキュラムマネジメントに関する研究
ー「学級力向上プロジェクト」「2コブラクダの授業づくり」「サービス・ラーニング」の視点からー

大山　和則*　　磯部　征尊**　　倉本　哲男***
*知立市立八ツ田小学校　**愛知教育大学技術教育講座　***愛知教育大学教職実践講座

Study for Curriculum Management to Educate
"Children Likes Themselves, Friends, School and Community"
- From the Point of View "Project for Promoting Classroom Competencies," "2 Basic Movements of Teaching Lesson" and "Service-Learning" -

Kazunori Ohyama*,　Masataka Isobe**,　Tetsuo　Kuramoto***
*Yatsuda Elementary School in Chiryu City
**Department of Technology Education, Aichi University of Education
***Department of Practitioners in Education, Aichi University of Education

キーワード：カリキュラムマネジメント、学級力向上プロジェクト、サービス・ラーニング
Keywords: Curriculum Management, Project for Promoting Classroom Competencies, Service-Learning

要約

本研究は、「自分が好き、仲間・学校が好き、地域が好きな児童」を育てるために、学級づくりや授業づくりを通した学校づくりであるカリキュラムマネジメントを充実させるものである。

学級づくりに関しては、学級力向上プロジェクトに取り組む。学級力向上プロジェクトとは、子供たちが主体的・対話的に「子供たちの子供たちによる子供たちの学級」をつくっていくものである。

授業づくりに関しては、他人事（３人称）が仲間や教師（２人称）との対話を通して、自分事（１人称）になる「２コブラクダの授業」を展開する。その際、教師による称賛や仲間同士の認め合いによる「温かい授業」展開となるようにする。子供たちが「わかった」「できた」「自分の意見が役立った」「認められた」という実感をもつことができるようにする。授業実践を積み重ねる過程で、教員同士の協働により、学校理論としての「八ツ田小型アクティブ・ラーニング」を構築する。

地域との協働に関しては、総合的な学習の時間の年間指導計画を見直し、サービス・ラーニングを導入することで、地域との相互便益を図る。本研究により、「地域の役に立った」「地域の方に認められた」という実感をもつことができるようにする。

研究１年目の本年度は、先行研究・事例研究を総括することで、研究の全体構造を完成させ、今後の実践と実証へとつなげる。

Ⅰ．はじめに

我が国では、平成27年12月21日の中教審の三つの答申を受け、平成28 年1月25日に「次世代の学校・地域」創生プランが策定された。学校にかかる観点からは、「社会に開かれた教育課程」の実現や、「地域とともにある学校」への転換という方向を目指した取組が進められ、地域にかかる観点からは、次代の郷土をつくる人材の育成、学校を核としたまちづくりという方向を目指した取組が進められている。

平成29年６月１日には、馳プランを実質化させていく上でも必要不可欠な取組をまとめた教育再生実行会議第10次提言「自己肯定感を高め、自らの手で未来を切り拓く子供を育む教育の実現に向けた、学校、家庭、地域の教育力の向上」が出された。そこでは、「日本の子供たちの自己肯定感は、諸外国と比べて低く、自分に対して自信がないままでは、必要な資質・能力を十分に育めたことにはならない」ことが指摘されている。学校や教師が実践すべきこととしては、「学級や学校の中で役割を分担し、協力して取り組む機会を充実したり、リーダーシップを発揮したりする機会を充実させる」「学校の授業以外のさまざまな場面において、年下の幼児・小学生、地域の高齢者、民間機関の職員等との学習や交流など多様な活動の機会を充実させる」ことなどが示されている。

そこで、本研究目的は、学校教育活動を、「カリキュラムマネジメント」の視点で整理し、児童の成長、学校や地域の教育力向上をめざすこととする。児童の自尊感情の高まり、教師の資質向上（学級経営、学習指導）、学校と地域との協働（相互便益）について論じる

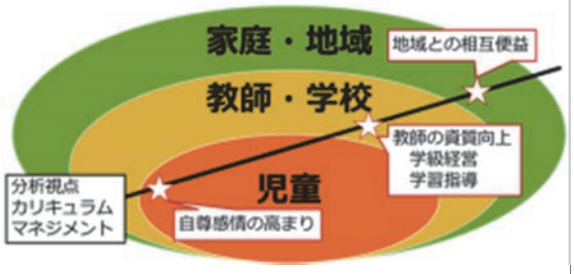

図１　研究の全体構成

ことは、他校への転用が可能であり、研究価値や実践価値が高いと考えた（図１参照）。

Ⅱ．先行研究・事例研究の総括

１．カリキュラムマネジメント

倉本は、カリキュラムマネジメントについて、「学校経営の中心であるカリキュラムをいかに開発して、経営していくのか、そのカリキュラムの開発・経営がどのような学校改善効果をもち、子供たちにどのような学習効果をもたらすのかを命題に、教育経営学と教育方法学が相互補完的に重なる「融合的領域」を研究対象とする（p.14）」[(1)]とまとめている。また、「『カリキュラムを創り、動かしていく』組織的なPDCAの営みが、どのように児童・生徒に教育効果をもたらすのか、教師の資質・向上に貢献するのか、学校と保護者・地域とのつながりを深めていくのか等について論じるもの（p.14）」[(1)]と述べている。

２．自尊感情

東京都教職員研修センター[(2)]は、自尊感情の三つの要素を「自己評価・自己受容（自分をかけがえのない存在と思えること）」「関係の中での自己（人の力になろうと思えること）」「自己主張・自己決定（自分を表現でき、自分で決められること）」としている。また、学習内容を習得させたり、指導方法を工夫したりすることが児童の自尊感情を高めることにつながる、と述べている。

栃木県総合教育センター[(3)]は、「『自己有用感』とは、他者や集団との関係の中で、自分の存在を価値あるものとして受け止める感覚（p.6）」と述べ、「貢献（他者や集団に対して、自分が役に立つ行動をしているという状況）」「承認（他者や集団から、自分の行動や存在が認められているという状況）」「存在感（他者や集団の中で、自分は価値のある存在であるという実感）」から成り立つと説明している。

３．学級力向上プロジェクト

田中[(4)]は、学級の子供たちが「笑顔と拍手があふれる、明日からも来たくなる明るい学級」を協力して創り上げていく協同的な学習として、「学級力向上プロジェクト」を考案している。具体的には、目標達成力及び、対話創造力、協調維持力、安心実現力、規律遵守力からなる学級力を高めるため、「①学級力アンケートによる学級力の自己評価」「②学級力レーダーチャートを基にして話し合うスマイルタイム」「③学級力向上のために子供たちが主体的に取り組むスマイル・アクション」という三つの活動を、R－PDCA サイクルに沿って実践する協同的な問題解決学習を提唱している。

４．２コブラクダの授業づくり

柳沼[(5)]は、授業案をつくるとき、問題解決場面が平坦に終わらないように、展開過程に二つの山をつくることを述べている。一つ目のこぶは、授業の導入にあたる。授業の方向性を示す「問い」は、学習内容への興味や関心を高めるものである。二つ目のこぶは、授業の柱となる「問い」で、社会認識を深めたり、広めたりするものであるとしている。倉本は、Professional teachers と実習生の授業との違いについて、２コブラクダを使って説明している（図２）。

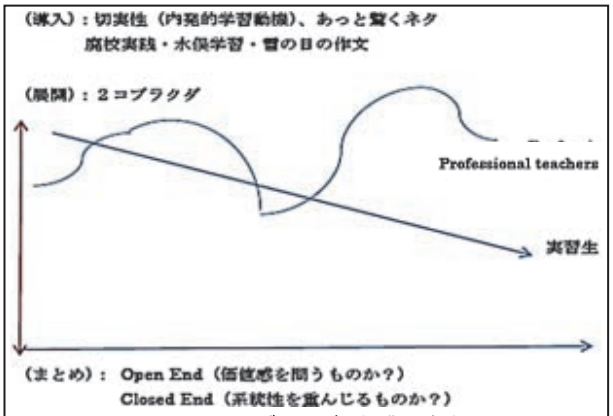

図２　２コブラクダの授業：倉本

５．建設的相互作用

国立教育政策研究所（以下、国研）[(6)]が「資質・能力」の育成についてまとめた中で、参加者の考え方が相互作用を通して、より一般的・抽象的なものへと変わる「建設的相互作用」が説明されている。国研は、建設的相互作用により、一人一人の子供が深く学びながら教室の中に学び合う集団ができていくと述べている。東京大学発教育支援コンソーシアム推進機構[(7)]では、「建設的相互作用」が、多人数のいるところで同時並行的に起きるのが、協調学習の基本的な姿であるとしている。一人一人の児童が自分の頭で考え、仲間と考えを比較・吟味しながらよりよい答えをつくっていく「協調学習」を引き起こす授業づくりが研究されている。特に、「多様な理解が統合されて考えが深まる」「一人一人が仲間とのかかわりのなかで、自分なりに納得する」「自分なりの納得が適用できる範囲が広がる」という協調学習のポイントが示されている。

６．サービス・ラーニング

倉本[(1)]は、「主としてアメリカで発達したサービス・ラーニング（Service-Learning）とは、社会貢献力（市民性）とセルフエスティームの向上を中心目標とする統合カリキュラム論、及び、授業論（p.15）」と指摘する。サービス・ラーニングとは、生徒が主体的に参加するサービス経験を統合化し、その学習経験を発展させていく教育方法・教育課程のことである。その経験は、地域社会の必要性に適合するものであり、学校と地域社会を関連させ、生徒たちの体験を学的カリキュラムの中に統合していくものでもある。サービス・ラーニングについて、生徒たちが学校での学習経験を活用しながら地域社会に貢献するサービス体験を通して、

主体的な学習経験をすることであり、地域社会の一員としての自覚と責任も学ぶものであると主張する。

Ⅲ．勤務校分析

１．学校評価より

カリキュラムマネジメントの充実のため、昨年度の学校評価を生かして、チェックから始めるCAPDのマネジメントサイクルにより、職員間での課題の共有化を図ろうとした。「児童は、自分のことが好きだと感じていると思うか」という問いに、教員の21名（80.8%）が「思う」「やや思う」と肯定的な回答をした。しかし、児童自身に「自分のことが好きか」と尋ねたところ、肯定的な回答をした割合は、全校平均で73.2%となり、教員が実感しているほど、高い数値ではなかった。また、高学年になるにつれ、肯定的な回答の割合が小さくなり、５年生では、62.9%、６年生では、55.6%という結果であった（表１参照）。

表１　「自分のことが好きですか」への回答（%）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校
思う	72.5	47.1	52.5	40.8	30	16.7	44.8
やや思う	14.5	24.3	32.2	31.6	32.9	38.9	28.4
あまり思わない	2.9	14.3	11.9	19.7	28.6	20.4	16.3
思わない	10.1	11.4	3.4	7.9	8.6	24.1	10.5

表１より、「自分が好き」だという気持ち、すなわち「自尊感情」は、人間形成において重要であり、児童自身の自尊感情を高める課題があることが分かった。

学級力向上について、勤務校では、平成28年度より、「学級力向上プロジェクト」に取り組み始めた。平成29年度には、全校体制での取り組みへと発展させ、全学級で学級力の実践を重ねてきた。その結果、学校評価においては、「学級を自分たちでよくすることができたか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は、全校平均で83.5%の結果であった（表２）。

表２　「学級を自分たちでよくすることができたか」への回答

回答	思う	やや思う	あまり思わない	思わない
%	42.2	41.3	10.9	5.6

地域とのつながりについては、2006年、児童の登下校を見守る「あんしん見守り隊」が市内で最初に発足した。また、「学区運動会」「学区防災訓練」など、地域と連携した行事がある。さらに、2006年に発足した「おやじの会」が、清掃・修繕などの奉仕活動、「卒業記念餅つき大会」などのイベントを実施している。このような取り組みにより、95%以上の児童が「地域の人が安全を守ってくれていると感じている（表３参照）。

表３　「地域の人が安全を守ってくれていると思うか」への回答

回答	思う	やや思う	あまり思わない	思わない
%	76.2	19.2	3.2	1.4

２．先行研究をふまえた質問紙調査より

東京都や栃木県の先行研究、田中の学級力アンケート、幸田町立中央小学校のCommunity Schoolに関するアンケートを基に、「ふだん思っていること」の質問紙を作成して、研究実践校の３年生から６年生の児童288名に調査を行った。その結果をspssで因子分析したところ、九つの因子が抽出された（表４参照）。

因子１には、東京都の調査で自尊感情の３要素とされた５項目と栃木県の調査で自己有用感の「貢献」「承認」とされた２項目が含まれており、「自尊感情」に関する項目と捉えた。因子２には、幸田町立中央小学校のCommunity Schoolに関する質問に含まれた四つが含まれており、「地域学習」に関する項目と捉えた。因子３には、田中の学級力アンケートの質問が７項目含まれており、「学級力向上」に関する項目と捉えた。因子４は「話を聞く」、因子５は「学校・地域が好き」と捉えた。因子６には、田中の学級力アンケートの「きまりを守る力」の質問が含まれており、「規律遵守」に関する項目と捉えた。因子７には、田中の学級力アンケートの「目標を達成する力」の質問が含まれており、「目標達成」に関する項目と捉えた。因子８は、「つなぐ・発言」、因子９は「めあて・振り返り」に関する項目と捉えた。また、相関係数を出し、0.4-0.7の相関があるところに着目したところ、９つの因子のうち、「学級力向上」「地域学習」が、「自尊感情」や「学校・地域が好き」だという気持ちと何らかの相関があると捉えた。また、「話を聞く」や「つなぐ発言」が「学級力向上」「自尊感情」と若干の相関があると捉えた（表５）。

表５　成分相関行列

成分	自尊感情	地域学習	学級力向上	話を聞く	学校地域が好き	規律遵守	目標達成	つなぐ・発言	めあて・振り返り
自尊感情		**.520**	**.520**	**.505**	.327	.143	.092	**.479**	.393
地域学習			**.424**	**.456**	**.409**	.065	.095	.396	.201
学級力向上				**.545**	**.408**	.324	.239	**.442**	.354
話を聞く					.343	.159	.134	**.477**	.302
学校地域が好き						.212.	.109	.277	.094
規律遵守							.297	.064	.177
目標達成								.224	.113
つなぐ・発言									.329
めあて・振り返り									

因子抽出法：主成分分析
回転法：Kaiserの正規化を伴うプロマックス法

表４　成分相関行列

構造行列										
		成分								
		自尊感情	地域学習	学級力向上	話を聞く	学校地域が好き	規律遵守	目標達成	つなぐ・発言	めあて・振り返り
自尊感情	自分にはよいところがある	.816	.391	.472	.524	.310	−.009	.108	.510	.286
	みんなの役に立っている	.798	.326	.427	.488	.117	.158	.141	.393	.478
	自分のことが好き	.740	.348	.281	.215	.458	.151	.056	.192	.162
	周囲から褒められる	.722	.407	.578	.474	.332	.085	−.028	.540	.221
	自分を大切に思う	.715	.383	.369	.392	.380	.215	−.032	.157	.181
	できることがたくさんある	.690	.600	.408	.409	.328	.086	.119	.349	.123
	みんなが納得する意見を言う	.650	.520	.457	.384	.217	.137	.185	.612	.415
地域学習	地域の人から学ぶと発見がある	.386	.774	.414	.341	.347	−.020	.239	.314	.183
	地域学習は楽しい	.380	.761	.451	.296	.398	.135	.109	.296	.258
	学区のことを学びたい	.375	.718	.271	.388	.417	.139	.288	.406	.221
	周囲に感謝している	.342	.646	.402	.487	.577	.106	−.039	.274	−.047
	地域の人との行事に積極的に参加している	.319	.575	.208	.405	.219	.137	.132	.326	.009
	自分が正しいと思うことは主張できる	.502	.538	.404	.465	.175	.051	.032	.464	.353
学級力向上	「ありがとう」を伝え合っている学級	.369	.333	.727	.335	.243	.258	.303	.233	.055
	「ごめんね」と仲直りできる学級	.313	.238	.707	.323	.235	.391	.239	.214	.145
	教え合いや助け合いをしている学級	.249	.268	.690	.301	.341	.142	.301	.381	.108
	みんなから「ありがとう」と言われる	.491	.389	.642	.492	.430	−.015	−.015	.529	.269
	誰とでも遊び、グループになる学級	.262	.272	.592	.178	.299	.446	.306	.198	.235
	他人の気持ちが分かる	.510	.517	.590	.583	.387	.194	−.071	.344	.457
	校外で人の迷惑にならない行動をする学級	.282	.174	.495	.349	.128	.471	.411	.167	.286
	考えや意見を進んで出し合う学級	.339	.231	.428	.308	.045	.147	.401	.426	.210
	係や当番に責任をもって取り組む学級	.298	.324	.423	.291	.274	.173	.227	.344	−.282
話を聞く	授業で友達の話を最後まで聞く	.414	.268	.431	.789	.285	.211	.283	.434	.448
	みんなが言うことをきちんと聞く	.426	.313	.377	.771	.263	.244	.177	.350	.253
	みんなの手伝いをすることがある	.383	.416	.370	.662	.203	.112	.124	.440	.276
	自分のことは自分で決めたい	.278	.376	.251	.611	.150	−.058	−.043	.155	−.090
学校地域が好き	学区が好き	.412	.430	.395	.352	.837	.222	.169	.370	.234
	学校が好き	.438	.532	.393	.355	.823	.083	.119	.334	.178
	学級、学年、学校の仲間が好き	.482	.446	.493	.401	.761	.222	.154	.346	.259
規律遵守	授業中にむだな話をしない学級	.178	.175	.238	.202	.072	.737	.132	.180	.087
	発言する人の話を最後まで聞く学級	.089	.019	.214	.113	.254	.707	.424	.209	.042
	友達を傷つることを言わない学級	.182	.169	.501	.302	.382	.637	.187	.094	.275
	学校のきまりを守る学級	.286	.044	.519	.246	.155	.609	.153	.092	.338
目標達成	学習や生活をよくする話し合いをする学級	.176	.307	.345	.288	.136	.170	.705	.121	.122
	目標やめあてに力を合わせて取り組む学級	.205	.185	.271	.106	.282	.353	.657	.251	.069
	よさや頑張りを伝え合っている学級	.159	.238	.460	.363	.297	.222	.651	.303	.102
つなぐ・発言	授業で友達の話につなげるように発表する	.397	.445	.268	.318	.215	.057	.116	.799	.240
	友達の話につなげるように発言する	.117	.094	.386	.406	.351	.195	.184	.642	−.024
	授業で自分と友達の考えを比べ、考えをよくする	.542	.558	.446	.435	.276	.132	.090	.640	.570
めあて・振り返り	めあてをもって授業に取り組む	.491	.332	.372	.574	.303	.059	.197	.492	.595
	授業で振り返りをする	.370	.519	.329	.348	.351	.185	.073	.291	.587
	因子抽出法 ： 主成分分析、 回転法 ： Kaiser の正規化を伴うﾌﾟﾛﾏｯｸｽ法									

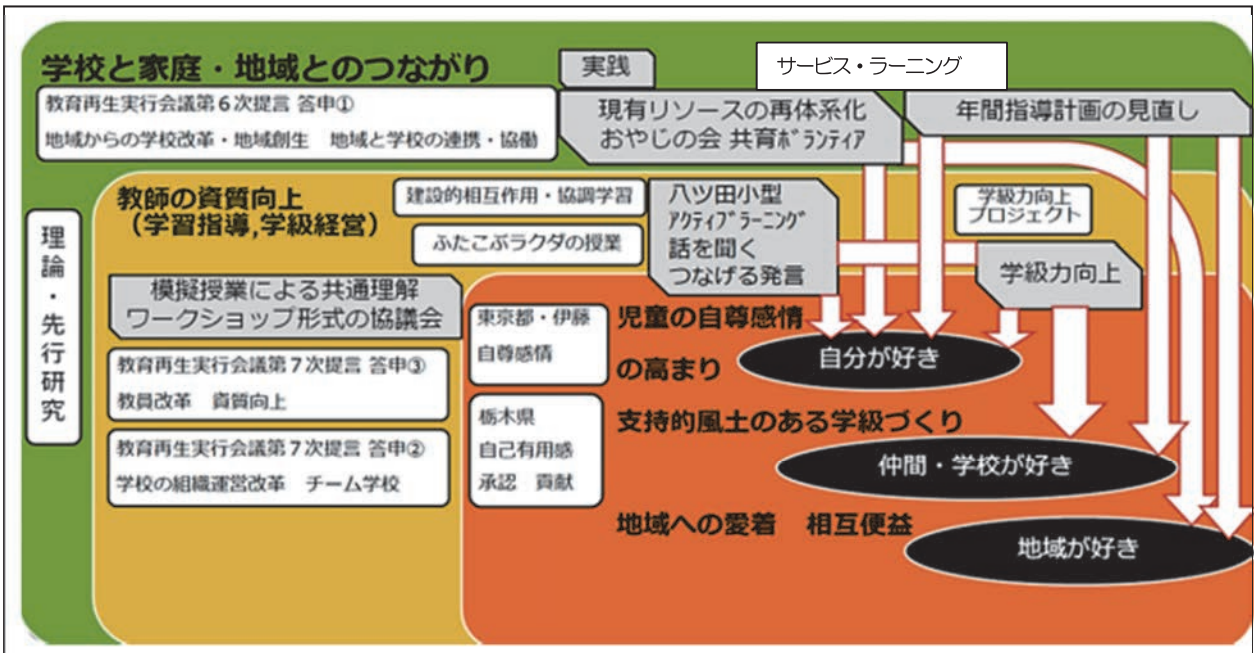

図３．研究全体構造図

これまで述べてきたことを一つの図にまとめたものが図３の研究全体構造図である。主たる取り組みは、３点ある。第１は、学級力向上プロジェクトでは、児童の自尊感情の高まりや支持的風土のある学級作りを進めるため、自分が好き、仲間・学校が好きな子供像を目指そうとした点である。学級力を全校で取り組むことで、教員同士が同じ土俵で学級経営について語り合ったり、教師の資質向上につなげたりしていくことを考えた。第２は、学級力向上で築いた自分の思いを安心して発言できる学級のよさを授業に生かそうと考えた点である。２コブラクダの授業づくりや、協調学習を基に、主体的・対話的で深い学びを実現させ、子供たちが「分かった」「できた」という実感をもつことができることをねらった。また、教師の称賛や児童同士の認め合いによる「あたたかい授業」を目指し、「自分の意見が役立った」「認めてもらえた」という気持ちを味わうことをねらいつつ、自分が好き、仲間・学校が好きという目指す子供像にせまろうと考えた。さらに、授業実践を積み重ねる過程で、教員同士の協働により、学校理論としての「八ツ田小型アクティブ・ラーニング」を構築することで、教師の資質向上につなげていこうと考えた。第３は、サービス・ラーニングや年間指導計画の見直しにより、学校と家庭・地域とが協働的に教育活動を進め、相互便益を図り、地域への愛着をもち、地域が好きと思える児童を育てたいと考えたことである。

Ⅳ．実践の概要

１．学級力向上プロジェクト

平成30年３月末の教職員の人事異動に伴い、平成30年度４月当初、新たな教員メンバー全員が、研究についての共通理解を図るため、研究副主任による学級力向上プロジェクトの模擬授業を実施した。

その結果、「学級力向上プロジェクト」に対して、「分かりやすく、イメージをつかむことができた」「工夫していきたい」「やってみたい」といった前向きな思いをもつことができた。一方、時間の確保に不安を感じている様子も見られた。そこで、年間を通じた学級力向上プロジェクトの取り組みの見通しがもてるように、予定表を提示した。児童がスマイルタイムを行う週には、学級力向上プロジェクトの進め方について、教員同士も相談し合うことを確認した。また、子供たちだけで学級をよりよくするアイディアを考えることが難しいときには、担任が子供たちに活動の提案を行った。学級力を高める具体的な活動については、全職員のアイディアを共有できるように、校内のサーバーに活動のアイディアを蓄積して、各担任が活動のヒントを得られるようにした。

２年生のある学級では、４月の話し合いでは、「給食当番や並ぶことが早くなった」というよさを振り返り、「聞く姿勢と話をつなげることを頑張りたい」という気持ちを高めた。（図４参照）

図４　４月のレーダーチャート

そこで、担任は、学校全体で統一した「話すとき・聞くときの留意点」と「認めて伝えるハンドサイン」を提示して、子供たちと学級づくりを進めた。

６月の話し合いでは、４月と比べ、子供たちの発言が増えた。子供たちが課題とした「話をつなげる力」の項目が 74 から 82 に８ポイント上がり、子供たちからは、「話をする人を見る人、『～さんと似ていて』と言える人、ハンドサインを使える人が増えた」という声が挙がった（図５参照）。

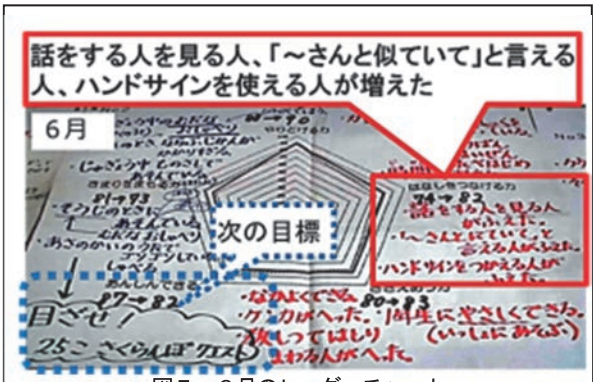

図５　６月のレーダーチャート

子供たちは、次の目標として「あんしんできる力」を高めるため、「めざせ！25 こさくらんぼクエスト」という活動に取り組むことにした。この活動では、自分が言われてうれしかった言葉や、うれしい言葉を伝えてくれた仲間の名前を、さくらんぼの形をした紙に書き、その紙を教室に掲示された木に掲示していく。

７月の話し合いでは、「さくらんぼクエストをがんばった」と、自分や学級のよさを振り返り、「前のレーダーチャートから、つなげて話している」と自分と仲間とのながりを大切にしつつ、学級生活を送ってきた様子が見られた。「さくらんぼクエスト」に取り組んだ子供たちは、「いっしょに遊ぼう」「字が上手だね」「鉛筆を拾ってくれてありがとう」など、言われてうれしかった言葉をたくさん伝え合い、よいと思ったことを進んで行う姿が増えた。本学級は、さくらんぼでいっぱいの木が育ち、互いのよさを認め合い、安心できる学級づくりができたと言える（図６参照）。

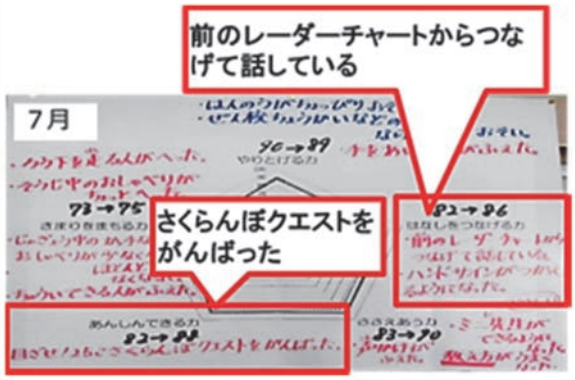

図６　７月のレーダーチャート

２．２コブラクダの授業づくり

同じく４月当初、学校長による家庭科模擬授業が実施された。その授業では、45 分の学習過程の中に、普通のマヨネーズとハーフのマヨネーズの味比べや成分表示を調べる１コブ目と、自分の家ではどちらを使うか意思決定を交流する２コブ目が組み込まれていた。１～６年目の若手教員５名と小学校勤務が初の教員１名の感想をユーザーローカルテキストマイニングツールにより分析した（https://textmining.userlocal.jp/）。文章中に出現する単語から特徴的な単語を選び出し、図示したワードクラウドが図７である。単語の大きさから、「こぶ」「取り組める」「45 分」といった言葉が特徴的な言葉であった。例えば「子供を課題解決に向かわせるタイムマネジメントが大切」「２こぶの作り方を体感でき、勉強になった。２こぶで、活動が細かく区切られ、テンポよく展開できることが分かった」という感想の記述があった。２コブラクダの授業づくりについて理解を深め、タイムマネジメントの大切さを学ぶ機会になったと言える。

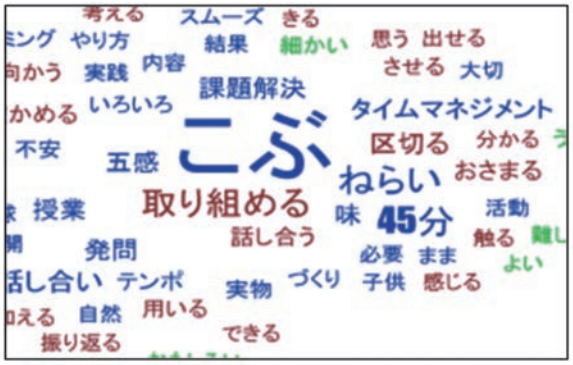

図７　家庭科模擬授業感想のワードクラウド

７月には、２年生の生活科の研究授業を行い、全教員が参観した。協議会では、ワークショップ形式を取り入れ、グループごとに付箋を使った話し合いをした。若手教員の感想からは、「子供たち」「姿」「組み立てる」「容れる」といった言葉が特徴的な言葉として選び出された（図８参照）。また、「互いに認め合い、受け容

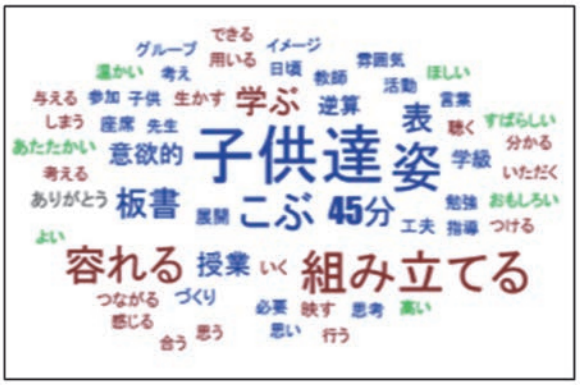

図８　研究授業感想のワードクラウド

れてくれる安心感がある授業が温かい授業で、あいづち、うなずき、アイコンタクトなど見て分かる工夫が必要」「授業の終わりの子供の姿から逆算して授業を組み立てていく」という記述が見られた。子供の姿から授業を組み立てる大切さを学ぶ機会であったと考える。

11月にも同様に全教員が参観して、５年生理科の研究授業を実施した。若手教員の感想からは、「変容」「看取る」「発問」「案」「出し合う」「わかる」といった言葉が特徴的な言葉として選び出された（図９参照）。

図９　研究授業感想のワードクラウド

また、「様々な教科でどのように２コブを作っていくか改めて考えさせられた」「深い学びをどのように見取っていくのか勉強になった」「子供がどのように変容したか、発言を注意して見ることが大切だと感じた」などの記述が見られた。授業前後の個々の変容を丁寧に見取ることにより、深い学びに関する検証ができることを学ぶ機会ができたと考える。

本研究では、模擬授業及び、研究授業による教職員の協働を通じて、学校理論を具現化する学習指導案の形式の改善に努めた。

３．サービス・ラーニング

「家庭や地域との協働による学習や行事」については、その都度、ホームページへの掲載、発信を続けた。子供たちは、多くの地域の方から学ぶ中で、「うまくできた」「ほめてもらった」という思いを感じながら、地域の方々と交流できた。

５月に行われた「知立友達祭り」では、学校に隣接する福祉施設でマーチングバンド部の演奏やカラーガード部の演技を披露した。また、学級力向上プロジェクトに取り組んだことをまとめた「はがき新聞」を２～６年生全員分の掲示を促し、地域への発信を行った。

運動会は、本校の運動場を会場として、午前は、学校が主催の学校の部、午後は、地域が主催の地域の部として、学校、家庭、地域との協働で盛り上げる運営を心がけた。

３年生の理科学習では、プールのヤゴを捕まえる活動において、平日にも関わらず、おやじの会の方が協力する姿が見られた。

５年生は、本年度より、防犯少年団として、地域貢献活動に取り組み始めた。「みんなが安心して暮らせる町を目指します」と安城警察署長さんに力強く誓いの言葉を述べた。そして、学校に隣接するスーパーマーケットで地域の方々に防犯のチラシを配布することで、防犯意識の向上を図った（写真１参照）。

写真１　防犯チラシの配布

また、パトカー、青パトに乗車して、家の施錠や防犯の大切さについて地域の方々への呼びかけを行った。

６年生は、夏休み中に、地域の公園掃除に取り組んだ（写真２参照）。

写真２　公園の落ち葉拾い

10月には、日本赤十字、知立市役所、あいち防災リーダーの関係者の協力のもと、「学区防災訓練」を行った。「家まですごろく」や、500ml給水、炊き出し、防災スリッパ、水消火器、ハンドケア、バケツリレー等の体験後、６年生女児が「もし、避難所生活になったら、困っている人の心を少しでも和らげたい」と、誰かのために自分自身ができることを語った。今後も、地域との協働を大切にして、高学年においては、地域との相互便益を図っていく予定である。

Ⅴ．考察

１．学級力向上プロジェクト

ある学級の児童の振り返りには、「友達によいことをして、名前を書いてもらうと、自分もよい気持ちになるし、相手もよい気もちになるので、私も、これからいろいろな人によいことを言っていきたいなと思いました」と書かれてあった。この記述からは、活動のよ

さを振り返り、今後も続けようとする気持ちが表れていたと言える。また、「きまりをまもる力を75点よりも高い点数になるように頑張ってやっていきたい」と、今後の学級をよりよくしていこうとする思いも表れていた。学級力向上の取り組みにより、少しずつではあるが、確実に「自分が好き、仲間・学校が好き」な子供たちに育っていると考える。また、ある担任の振り返りには、「学級のよいところを児童がたくさん言えるという学級のよさに私自身が気づかされた。自分たちの学級のよさを語り合い、確認することで、自分たちの学級に自信がもてるようになると思う」と書かれてあった。また、「子供たちがよりよく成長してくれることを願い、私も学級のためにがんばりたい」という決意が表れていた。子供たちの成長と教師自身の成長が、本研究の成果の一つと言える。

２．２コブラクダの授業づくり

若手の教員について、４月当初は、45分のタイムマネジメント、２コブをどう入れるかに意識が向いていた。７月、11月と実践を重ねるに連れ、子供の姿から授業をつくることの大切さに気付くと共に、授業前後の子供の変容を見取りつつ、深い学びを展開するための方策を検討する姿勢へ変容した。また、中堅、ベテラン教員についても、「２コブの授業の作り方について、意見が分かれるような真の発問で話し合いができる内容を考えていくといい」「もっと子供の考えや発言を予想して、子供の思考の流れやずれから授業を組み立てることをみんなでやっていかなければ」などと、２コブラクダの授業を意識して、教師の協働により、学校全体で研究を推進していこうとする振り返りが増えてきた。

３．サービス・ラーニング

昨年度までの５年生の総合的な学習の時間では、社会科学習と関連させた米作りの学習を進めてきた。しかし、本年度は、防犯少年団として、地域の方々と共に、地域を守る活動に取り組んだ。また、校内の不審者対応訓練でも、下学年の児童にメッセージを発信した。６年生についても、表６のように年間指導計画を見直した（表６参照）。

表６　年間指導計画（総合的な学習の時間　６年生）

月	4	5	6	7･8	9
学習内容	人の役に立つことは何？ ニーズを調査しよう	低学年との交流計画をしよう	福祉実践教室、高齢者疑似体験をしよう	夏休み中の活動計画を立て、実践しよう	夏休み中の活動報告をしよう
月	10	11	12	1	2･3
学習内容	福祉の里を見学しよう 学区防災訓練に参加しよう	高齢者の方との交流を考えよう	高齢者の方と交流しよう	人の役に立つ活動をまとめよう	5年生に1年間の活動報告をしよう

表６より、校内での貢献から始めて、地域での貢献へと発展させながら、学習を進めることができた。

Ⅵ．まとめ（今後の計画）

本稿では、教員同士の協働、学校と家庭や地域との協働を図りながら、児童自身の成長や教員集団の資質向上へとつながるカリキュラムマネジメントの充実について、実践と検討を行った。

今後は、児童、教員、保護者を対象とした学校評価や、先行研究をふまえた質問紙調査の再実施により、児童の変容と各項目同士の相関関係を再度、分析しなおす。また、共同研究者との間主観法で、学級力向上プロジェクト、２コブラクダの授業づくり、サービス・ラーニングについての自由記述分析（テキストマイニング）や、研究推進会議の発言記録分析（ディスコース分析）を行う予定である。

引用文献

1)倉本哲男『学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」』学校運営　2017年８月号　p.14-17
2)東京都教職員研修センター紀要　第 11 号　自尊感情や自己肯定感に関する研究（第４年次）　2012
3)栃木県総合教育センター　『高めよう！自己有用感～栃木の子どもの現状と指導の在り方～』2013
4)田中博之『学級力向上プロジェクト　実践事例集２小・中・高校編』金子書房　2014
5)柳沼孝一　『「ふたこぶラクダ」の授業案づくり』明治図書　社会科教育　2011.6, pp.90-91
6)国立教育政策研究所　『資質・能力　理論編　［国研ライブラリー］』東洋館出版社　2016
7)三宅なほみ　東京大学 CoREF　河合塾　『協調学習とは』北大路書房　2016

参考文献

・倉本哲男『Lesson Study and Curriculum Management in Japan』ふくろう出版　2014
・倉本哲男『アメリカにおけるカリキュラムマネジメントの研究』ふくろう出版　2008
・倉本哲男『開発的生徒指導論と学校マネジメント』ふくろう出版　2007
・田中博之　磯部征尊　伊藤大輔　『マンガで学ぼう！アクティブ・ラーニングの学級づくり　クラスが変わる学級力向上プロジェクト』金子書房　2017
・村川雅弘『ワークショップ型教員研修 はじめの一歩―わかる! 使える! 理論・技法・課題・子ども・ツール・プラン 77―』教育開発研究所　2016
・池田和博『家庭・地域との連携システムの構築と児童の学びに関する研究 ～コミュニティ・スクール構想とサービス・ラーニングの視点から～』愛知教育大学教育実践研究科修了報告論集　2015,6, pp. 421-430